

〈彙報〉

平成九年度 国文学科活動報告

国文学科芸能鑑賞―雅楽鑑賞―

日時 平成九年月二十六日(木) 十一時〜十二時三十分
場所 南港学舎講堂

演目 天王寺楽所 雅亮会

解説 小野 功龍先生(本学学長)

解説 雅楽の音楽について

演奏 平調音取

管弦 越天樂 催馬樂

解説 雅楽の舞踊―舞楽について―

演奏 舞楽 還城樂

対象 国文学科一・二年生全員

今回は、趣向を変えて本学講堂にて「雅楽」を鑑賞することにした。古典文学を学ぶとき、どうしても学生に伝えきれない事柄に「楽」がある。こればかりは如何せん、日頃の素養がものをいう。映像を通じての鑑賞は、やはりそれはそれ。

目の前に展開した雅楽の豊饒な世界に引き込まれるばかりであった。とりわけ、最初のプログラムになかった「催馬楽」は、正直いつて学生よりも教員の勉強になったのではないかと小野先生をはじめ、雅亮会の皆様のお世話で、充実したひとときが過ごせたことを喜びとしたい。あとはこの体験を教員や学生諸姉がどう生かすかなのだけでも。

国文学科講演会

日時 平成九年十月八日(水) 一時二十分〜三時
会場 南港学舎講堂

講師 関西大学教授

網干 善教先生

演題 「歴史のなかに生きるということ」

対象 国文学科一・二年生全員

平成九年度は、我が国の考古学研究の権威網干善教先生にご講演をお願いした。高松塚古墳の発見・研究者として知らぬ人のない高名な先生のご講演とあつて、学生たちの聴講態度もよかつたようだ。それは、ひとえに先生の巧みな話振りと、スライドを使いながら高度な内容をわかりやすく解釈し

てくださったからにはほかならない。高松塚古墳の壁画や表現を中心として、八角墳のこと、四神のこと、鏡のこと等々日頃は学ぶ機会の少ない考古学のあれこれを聞かせていただき、古代文化が現在の我々の生活とどのように関わっているかを学ぶには、時間が短かすぎて先生に失礼したことと思う。学生たちの目を新しい分野に開いてくださった網干先生に心から御礼申し上げます、今年度の国文学科講演の収穫を喜んでいる。

文学遺蹟めぐり―嵯峨野方面―

日時 平成九年十月三十日(木)

行程 JR大阪城公園駅前(集合・バス乗車)―嵐山(バス下車)―亀山公園(昼食・ゼミ別写真撮影)……【ゼミ単位で散策 野の宮……常寂光寺……落柿舎……二尊院……祇王寺……化野念仏寺……厭離庵】……清涼寺(ゼミ別写真撮影・最終点呼・バス乗車)―

新大阪駅
対象 国文学科一年生

今年度の文学遺蹟めぐりは、学年全体としては初めて嵯峨

野を訪れた。現地では亀山公園を起点とし、それぞれのゼミごとに分かれ、各関連の遺蹟を探訪した。「平家物語」を学習しているゼミでは、白拍子にゆかりの祇王寺を訪ね、この世を捨て、隠れ住まねばならなかった人々の生きざまが、この地を實際に訪れてみて、脳裏に焼きついたのではないだろうか。清涼寺においては、木造釈迦如来像の胎内に収められた瑞像立記などの文書・御経、さらに五色の絹で作られた五臓六腑など貴重なものが収められているのを見学したゼミもあった。また、化野念仏寺まで足を運んだゼミもあった。紅葉狩りには少し早いですが、講義では味わうことができない古典とその風土とのふれあいの一日を過ごした。

平成九年度国文学科ゼミ活動報告

〈柿谷ゼミ〉

日程 七月十三日(日) 平安京遺蹟 神泉苑

京都御所 祇園会 紫式部邸跡
十一月二十三日(日) 嵯峨野・大覚寺・清涼寺

〈北谷ゼミ〉

日程 六月二十九日(日) 近つ飛鳥博物館とその周辺

八月二日(土)・三日(日) 熟田津・松山方面

十月十二日(日) 春日・佐保周辺

十二月十四日(日) 暗峠越え

〈鳥井ゼミ〉

日程 十一月九日(日)・十六日(日)

谷崎潤一郎記念館

〈鈴木ゼミ〉

日程 十一月十三日(木) 兵庫県立歴史博物館

〈橋本ゼミ〉

日程 一月十七日(土) 本居宣長記念館